みなとの技を訪ねて

精密部品加工

◀ロケット部品の製作に使った旋盤を扱う花田さん。「失敗時のリスクを考えたら今でもゾッとするわ（笑）」

その名は「N－Ⅱロケット」。米国のデルタロケットの技術を導入して開発された三段式ロケットで、昭和五十六（一九八一）年からの六年間に技術試験・通信・放送・気象・地球観測などの目的を持つ八機の人工衛星の打ち上げを担いました。その最後を飾って昭和六十二年二月十九日、鹿児島県の種子島宇宙センターから海洋観測衛星「もも1号」を打ち上げたのは、その七号機でした。全長三五・三六メートル、外径二・四四メートル、重量は一三五・二トン（人工衛星を含まず）ー。

この人工衛星打ち上げロケットの「部品をつくった

花田工作所
花田 文男さん
（波除2、73歳）
＜上＞

鉄工業者が港区にいたはるで」との読者の一報を受け、波除二丁目の「花田工作所」を訪ねました。

港区のどこでも見かける小さな鉄工所。機械油が匂う古びた作業場で、経営者の花田文男さん（七三）は弟の和美さん（六八）と二人、旋盤やボール盤を動かしていました。

高熱と高振動に耐え抜いたロケット部品を製作

◆特殊な合金を使って

花田さんによると、その仕事を受けたのは昭和六十二年初頭、四十八歳の時でした。手がけたのはロケットの「燃料噴射弁体」。つまり、発射時に噴射される燃料の流れの方向を調節・誘導する部品でした。

提供された材料は「モネル」という金属の塊。鉄やステンレスより遥かに軽いが、チタンよりは重く、超高熱や超高振動にも耐え得る特殊な合金でした。大きさは縦・横・高さがそれぞれ約三〇センチのほぼ立方体（大きなサイコロ状）。花田さんの仕事は、その三つの面の各中央から、燃料の通り道となる直径十二～三センチの穴を開け、その〝坑道〟を中央でぴったり合流・交差させるというものでした。

◆事情知らされず開始

材料に予備はありません。失敗すれば巨額（九十八万円）の弁償が待っています。しかも加工賃は十五万円弱。「失敗時のリスクを考えたら今でもゾッとするわ。もっと仰山もろとってても良かったな」と振り返りますが、当時は「国家機密」とかで、宇宙航空研究開発機構からの注文を仲介した業者から詳しい事情は知らされず、「それが却って良かったのかも」と笑います。

ともあれ、工期はわずか三日。提供された設計図に基づいての加工が始まりました。ドリル、旋盤を使っての穴開けと研磨は慎重に慎重を期しました。寸法や角度の正確さだけでなく、加工面が超滑らかであることも求められたからです。

ロケット部品製作当時の技術が今に生きる精密加工部品（写真はシャフト受け）↑

◆厳しい検査にも合格

完成後の検査は厳格を極めました。寸法チェックはもちろん、他の部品との接合具合のチェック、そして加工による損傷やひび割れなどがないかを調べるカラーチェック―。そのどれにも合格し、晴れて納品できたのですが、その時初めて、この部品の使用目的や材料の金属名、そして発射時の超高熱状態や振動数（毎秒六十回！）などを教えられ、手掛けた仕事の重大さに目を丸くしたそうです。（つづく）

反戦平和映画人の人生と思いを劇化

『戦う兵隊』など好評博す

『戦ふ兵隊』などの作品で知られる反戦平和の映画人・亀井文夫（一九〇八～一九八六）の人生と思想を劇化した二作品が五月に石炭倉庫（波除）で上演され、好評でした。「綾羽一紀一周忌追悼公演」と題し、昨年亡くなった作家・綾羽一紀さんの作品をあんがいおまるさんが演出、あんがいおまる一座が演じました。

治安維持法で逮捕投獄

亀井文夫は明治四十一年福島県に生まれ、画家を志しますが、ウラジオストックで観た映画に感動し、映画監督を決意します。戦時中、陸軍の依頼で『戦ふ兵隊』を作りましたが、武漢作戦の記録映画に映っていたのは美しい自然や中国農民の不安な表情、それに疲れた兵隊たち。戦意高揚の画面はなく、結果、治安維持法で逮捕・投獄されます。

戦後は『日本の悲劇』で戦争責任を追及。『生きていてよかった』では被爆者の十年後を追いました。『戦争と平和』を山本薩夫と共同監督した後、戦車や飛行機が東宝の労働争議を鎮圧。「暴力で文化は滅びない」の言葉を残し、映画を去ります。晩年は骨董屋として余生を送っていましたが、最後に彼本来の優しさが集約されたような生き物讃歌の映画『トリ・ムシ・サカナの子守唄』を遺しました。

優しさのルーツたどる

二作品は、こうした亀井の生きざまを、虚構を交えて追ったものでした。

『戦う兵隊』では軍人（陸軍報道部長）と新聞記者の眼から亀井の反戦思想が浮き彫りにされました。映画『戦ふ兵隊』の挿入が効果的で、左遷され、息子を戦地で失った軍人の内面の葛藤が、戦争の矛盾を一層浮き上がらせていました。記者と軍人が浜辺で「故郷」を歌うラストシーンに、作者の平和への想いが凝縮しているように思われました。

『骨董屋主人』では晩年の亀井を女性雑誌記者が取材する形で彼の優しさの源流が辿られました。映画作りを共にした元女優の老婆との再会。記者の率直な質問。それらに眠りを覚まされかのたように生き物讃歌の映画を決意するラストは、閉塞社会の向こうに見える作者の希望を表現しているようでした。各役者の落ち着いた演技、美しい古典音楽は、亀井晩年の静けさを一層深く感じさせました。

◇

■ごくらくとんぼ一座『季節はずれの花』 長屋を舞台に元漫才師の長老を中心に展開される涙と笑いの人情喜劇。原作は難波利三『遅れ咲き』。故綾羽一紀脚本、あんがいおまる演出。六月三十日（土）十四時、七月一日（日）十一時、十四時の三回。前売千八百円、当日二千三百円。問合せ・申込みは会場の石炭倉庫（波除六－五－一八、JR弁天町から国道四三号を北進、安治川堤防突当り右すぐ。☎六五八一・〇六六四）へ。

映画人・亀井文夫の生きざまと思想を浮き彫りにした芝居の一場面（上は『戦う兵隊』、下は『骨董屋主人』）

芸能ミニ情報

香西かおりさん

●三先出身の歌手・香西かおりさん 今年は歌手生活二十五周年。チャリティコンサートやオークションを通じて被災地支援を継続▽二十五周年記念シングル第二弾『酒のやど』好評発売中▽七月十四日（土）十九時から吹田メイシアターで開催の「第四十三回吹田まつり2012ハートフルコンサートの夕べ」出演予定（二千円、全席自由、☎六三八四－二一四五事務局）▽かおり倶楽部は夕凪一－一一－一八。

藤かほりさん

●波除在住の演歌歌手・藤かほりさん 六月十七日（日）杖道大阪大会に出場予定▽毎週水・土曜十八時半～二十時半に弁天道場（市岡元町JRガード下）で杖道などの練習生と共に稽古▽「目の不自由な人に盲導犬を」と毎年恒例の「盲導犬チャリティショー」第十八回の開催日が九月三十日（日）に決定▽『男の夢十二代』『人生荒野』好評。共に歌謡界の大御所・安藤実親作曲。インターネットで購入可。有線リクエストは「男の夢十二代」▽☎六五八二－一二四一藤企画。

川奈ルミさん

●港南中学校出身の歌手・川奈ルミさん 六月十七日（日）東京・銀座の銀座タクトで「川奈ルミ・ライブ～ラテン&カンツォーネ」開催▽七月十日（火）東京・渋谷区千駄ヶ谷のラドンナで開催の「三善英史ディナーショー」にゲスト出演▽七月十五日（日）高槻市立センター（高槻市桃園町二－一）で開催の「優歌謡スクール発表会」に十七時ごろ出演▽シングル『愛につながれて』『今をとめないで』とアルバム『愛の詩』好評発売中。▽☎〇三－五三九七－六七六七㈱朝月。

青木美香子さん

●弁天在住の歌手・青木美香子さん 毎週火曜十七時半と土曜十四時半からベイコム11チャンネルで「ミカリンの大坂歌絵巻」放送中▽六月二十五日「通天閣歌謡劇場」（毎月曜正午と十四時五十分、千五百円、入替なし）出演▽六月二十九日（金）十九時半心斎橋ライブハウスでソロライブ（チャージ二千円）▽八月二日（木）十九時から大丸心斎橋劇場で「サマーコンサート」（前売券二千円発売中、8面に読者プレゼント）▽☎六五五七六－六六五三オフィスMIKARIN。

企画 黒猫 ガットネロは
5月から社団法人になりました
クラシックやポピュラーを中心とした公演の主催を通じて、若い音楽家の支援にとりくんでまいります。これまでと変わらぬご支援を宜しくお願い致します。
一般社団法人ガットネロ代表　松浦由美子
天王寺区上本町6-2-37-2F ☎6767-0012
http://www010.upp.so-net.ne.jp/gatto-nero/

大好評受付中！
出前さんぱつ
月曜日にご自宅（外出困難な港区内の方）や施設まで出張
カット2,000円＋出張費1,000円（施設など2人以上なら無料）
ご来店料金は2,500円より
磯路2-1-21 りそな銀行前　床屋カンパニー　☎6577-5225

とにかく得電ねん！
LED照明に換えてみませんか！
コスト減（電気代カット・驚異の長寿命）＋環境貢献（CO2を削減・有害物質ゼロ）
割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単
中小企業で世界初の全社屋LED化＜見学歓迎＞
前田機械㈱ LED事業部（LED照明・企画販売）
市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
http://www.maedamachine.com

自分史を綴って過ごす良き余生！
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
大学から都市銀行に就職しましたが、職場の人間関係からうつ病に陥り、休職と復帰を繰り返した揚句に40歳で退職。以後は京都で喫茶店を営み、結婚もせず、山登りを趣味に生きてきました。そんな人生の意味を問い直したく、聞き取りをお願いしました。（60代男性）
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
★文書全般の代筆も承ります★
港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636